

## 旧能代北高図書室の丸テーブル

## 県立図書館で再利用

旧能代北高の図書室や、校舎内で60年以上前から使用されていた丸テーブルが、秋田市の県立図書館の館外に設置され、利用者の憩いの場として設置されている。生徒の憩いの場として長い歴史を重ねてきたテーブルは、天板の表面にもみ殻で作った「もみ殻エコーボード」が施され、新天地で再び息を吹き返した格好だ。



「もみ殻エコーボード」を表面に施し、よりニールとした丸テーブル

旧能代北高は25年3月末で60年にわたる歴史に幕を閉じ、同4月に旧能代北高と統合され、能代松島高として再スタートを切った。統合に伴って備品の整理が行われ、県立図書館が旧能代北高の丸テーブルを譲り受け、新天地になった。丸テーブルは、同校出身で母校でも教壇に立った県立図書館の小野道子館長(58)によって「読書のあそび」にちなみ、

60年以上、生徒と共に  
もみ殻ボードで化粧直し

同校は数年前から図書館教育に力を注ぎ、動機もその伝統を継承。蔵書数も県内第一のシンボル、

同26年の写真には丸テーブルを囲んで読みふける生徒が写っており、丸テーブルが生徒の読書熱を支えていたことがうかがわれる。



昭和26年当時、閲覧室の中央に設置されていた丸テーブルは図書館のシンボリック的存在(能代北高創立70周年記念誌より)

図書館の職上役を務めてきた。その充実ぶりには同校の創立70周年記念誌(昭和60年発行)にも記載されている。

60年以上の歴史のある丸テーブルは、春建築工房(能代市字中浜)が製造するもみ殻を主原料とする新製「もみ殻エコーボード」を施して化粧直しされ、脚も補修された。

小野館長は、丸テーブルが本流だった旧校舎の図書室からさまざまな用途を経て同館にたどり着いたことで、読書熱を導いた。先生や生徒の憩いの場として大切に使用されている。

記念誌によると、同25年に県立図書館を移す

今夏から県立図書館入り口付近に同校の椅子とでも設置され、リニューアルした女子トイレを運営している。話し合いの場や食事用にも活用され、利用者の反